



とのやま

【学校教育目標】生き抜く力を身につけ、自ら輝く生徒の育成

【目指す生徒像】自立のために自律できる生徒



富士見台中学校HP

面接練習を振り返って ～「日常生活が大事」を体現した3年生諸君へ～

20日(水)、3年生の面接練習が終了しました。この時期、3年生が行う面接練習は、高校入試に備えてということが主たる目的です。しかし、昨今、多くの高校で面接を実施していません。地元富士見高校でも、最近は実施していません。多くの3年生にとって「受検に必要なもの」面接練習でした。校長や教頭と向き合う時間なんてわずか15分程度。そう考えると、これを適当にやり過ごすこともできたでしょう。

しかし、多くの3年生は、これを「自らが成長できる機会」ととらえ丁寧に準備をし、しっかりと緊張して練習に臨みました。以下、面接練習から校長が感じたことや3年生のよさや課題、それを克服するための手だてなどを示します。3年生のみなさんは、自身の面接練習を振り返りながら読みましょう。そして1・2年生のみなさんにとっては、近い未来の話です。特に1年生のみなさん、あなたの高校入試では…。

「受検のための面接練習」と思っていない

校長も教頭も、あなたたちと面接練習ができたことがうれしかったです。それは、あなたたちがこの機会を「受検のため」ではなく、「自己の成長のため」「未来を見据えて」臨んでいたからです。学年の先生方に事前指導いただいた内容、そして面接練習に臨む心構えを理解し、しっかりと準備してきたことが伝わりました。

そして、緊張している人が多かったです。緊張するということは、この機会を真剣に受け止めている証拠。もちろん、緊張しすぎることはいいとは言えませんが、「緊張感」をもっていた生徒は背筋がぴしっと伸びて、表情も凛々しかったです。

逆に、人前で話す経験が豊富で面接が得意と自負している人の中には、得意だから、慣れているからこそその「油断」や「驕り」を感じるがありました。

礼法を身につけた

服装や髪型、もちろん名札も。応接室前の姿見で服装を確認し、頭の前からつま先の先まで身なりを整えて面接に臨んでいました。第一印象は大切ですからね。緊張しすぎて、入退室がロボットのようにであったり、退出時に足が椅子にぶつかって大きく椅子がずれたりしたことはご愛敬。「今回は、次回に向けた練習」「失敗は成功のもと」です。上手くいかなかったことを改善すれば、あなたはよりよく成長できます。

面接は、人と人が向き合って話をするのです。頷いたり返事をしてから話したりなど、自然なしぐさが表れることは、面接官の話をしっかりと受け止めている証拠です。そんなしぐさが多く見られたあなた。私はとても話しやすかったです。しかし、身振り手振りが多いと、面接官は話に集中できません。これは気をつけましょう。

適切な「言葉」と「言葉遣い」を身につけよう

「言葉」は増やしたほうが良いと感じました。「伝えたいことが上手く伝えられなかった」という感想を多く聞きました。言葉を増やすには、読書が一番。それも、ある程度質の高い本を読むことで、新しい言葉や豊かな表現に出会うことができます。「先生がいちいち教えてくれる」と「先生が一つ一つ教えてくれる」では、その意味が相当違いますよね。

また、今回、面接練習をしていて「上手い」でなく、「気持ちがいいな」と感じた生徒はみな、品のよい話し方をしていました。これは日ごろから時と場に応じた言葉遣いの大切さを理解し、実践してきたから身につけているのです。

「面接のときだけうまくやれば…」と考えているあなた、そんなに甘くありません。すぐにボロが出ます。親や先生など身近な大人に対して、日頃から丁寧な話し方と適切な言葉遣いを意識しましょう。

「学校LOVE」を伝えよう

今回の面接練習のフィードバックで、最も多く指摘したことは「志望理由を練り直す」ことです。志望校の資料や説明会、文化祭などで知り得た情報をもとに、「御校でないとダメなのです！」くらいの、いわゆる「学校LOVE」が伝えられるようにしましょう。「学校LOVE」を熱く語る熱量が、この先の長い戦いを乗り切るモチベーションになりますよ。

学校では普段の授業をはじめ、自分の考えを文章にまとめる機会が多くあります。そのときに、与えられた枠いっぱいに文章を書くよう心掛けてきた人は、「説明する力」と「まとめる力」が養われていました。面接では、伝えたいことを簡潔にまとめて話すことが求められます。だからこそ、文章を書く機会を疎かにしてはいけません。日々の積み重ねが大きな差になりますよ。

「中学校生活での一番の思い出は？」

という問いに対して、多くの方が「日常生活」と答えました。これには驚き、感動しました。そう答えた人は一様に、充実した学校行事や部活動であったのは全て、日常生活を疎かにせず、そこから学んだことを生かしてきたからと話していました。中学校生活の一瞬一瞬を大切に、そして経験したことを成長の糧としていることがはっきりと伝わってきました。

伝わる挨拶

これは面接練習に限ったことではありません。3年生の多くは、いつでもどこでも相手を認識し、その人に伝えようという気持ちをもって挨拶をしています。入退室の挨拶はもちろん、昇降口や廊下であった際に「今日は面接お願いします」、欠席で後日実施の生徒は「お時間とっていただきありがとうございます」と。台中生はよく挨拶「して」います。中でも、3年生の挨拶は「伝わる」のです。

「日常生活が大事」を体現。3年生の面接練習を振り返ると、この言葉に尽きます。3年生のみなさんには、この先も日常生活を大事にしながら、進路の実現に向けて努力を重ねる姿を後輩たちに示してくれることを期待しています。1・2年生のみなさんは、3年生の姿から多くのことを学び、自身のさらなる成長に生かしていきましょう。

この便りは、保護者の方にもお渡しして読んでいただいています。